



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 22 号

2005.10.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつかっています。

も く じ

おしらせ

- －『高原の自然史 第 10・11 号』発行
- －『芸北 草地シンポジウム
－草地がつなぐ人・文化・いのち－』
を開催（別紙）

活動報告

- －秋の植生調査
- －雲月山の植物

読者サロン

- －テーマトーク
「秋の夜長に読みたい本」

観察会案内

- －深入山の植物
- －サツキマスの産卵
- －鳥の観察会
- －キノコの観察会
- －冬鳥の観察会
- －木の実と冬芽の観察会

花だより

- －ヤマラッキョウ
- －ツルリンドウ
- －ナギナタコウジュ

お し ら せ

『高原の自然史 第 10・11 号』を発行

(2005.9.1)

高原の自然館が出版する学術報告『高原の自然史 第 10・11 号』のご注文を承っております。メールでもお申し込み頂けます。

【発行月日】2005 年 9 月 1 日

【発 行】北広島町教育委員会 高原の自然館

【I S S N】1341-8823

【定 価】2,000 円（西中国山地自然史研究会会員は 1,400 円）

【目 次】

広島県臥竜山麓の放牧跡地に発達した植生

吉野 由紀夫・白川 勝信

広島県臥竜山録の植生変遷

吉野 由紀夫

千代田町南方地区の植生動態

金 在恩・田尾 友希・中越 信和

廿日市市吉和中津谷溪谷および細見谷の変形菌

原紺勇一

広島県芸北町サクラソウ集団の葉緑体 DNA 変異

本城 正憲・津村 義彦・鷺谷 いづみ・大澤 良

八幡高原におけるアラゲナツハゼの遺伝変異

平井 正志・津呂 正人・久保 中央

豊平町志路原・上石のオオサンショウウオの繁殖生態と保護の試み

桑原一司・足利和英・南方延宣・中西正人・嶋田浩明・鎌田 博・福本幸夫

西中国山地におけるソウシチョウの営巣初確認と生息状況

上野 吉雄・荒木 信・小柴 正記・日比野 政彦

活動報告

湿原の復元プロジェクト～秋の植生調査～

開催日時：2005年9月19日（月）9：30

今回も夏の調査同様、ぶなの里で懇親会を開きました。13人の調査参加者とぶなの里のみなさんなどでおいしくごちそうを戴きながら、植物談義に花が咲きました。話は八幡の自然再生から八幡の将来、はては匹見の植物、来年の観察会までどんどん広がり、とても有意義な懇親会だったと思います。

その翌日は、タープを打つ雨の音で目覚めました。実は、参加者の山場さん、コミヤ君と共にハンモックを使って野営していたのですが、調査を不安にさせる目覚めでした。それでも18名の参加者は元気に自然館に集まってきます。はじめに自然再生事業や調査の目的について説明した後、早速現地に向かい、調査開始です。今回は、ある程度杭を立てて目印を作っておいたのですが、どうしても見つからないプロットもありました。また、種数が増えて時間がかかった班もありました。ただ、参加者の皆さんも調査に慣れてきて、調査自体は順調に進んだように思います。

昼食を挟んで、午後からは恒例の同定大会と標本作りです。調査の専門家、大竹さんに標本の作り方を解説して頂き、取ってきた標本を同定しながら押しました。一通りの作業が終わる頃、再びの雨音に「そういえば降らなかったなあ」と気付いた次第です。

[しらかわ]



今回も懇親会はぶなの里。



プロットを探すコミヤ斑。このプロットでは30種の植物が見られた。



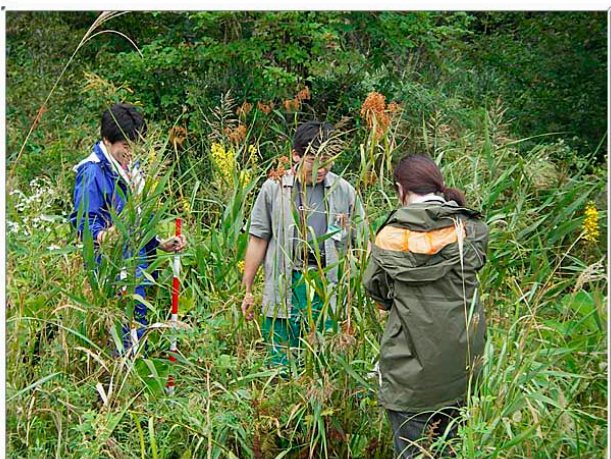
植生調査の風景。続けてやっていると各々の役割が自然と決まってくる。



湿地の植生が見られた調査区.



山麓庵で種名を調べ、標本に押していく、新聞を読む、む？



調査が終了後、標本を集める博物館実習生.



大きな標本は折ながら挟む.



標本の折り方をレクチャーする大竹氏.



今回の発見、エゾアブラガヤ・八幡にはアブラガヤと両方があるようだ.

活動報告

雲月山の植物

開催日時：2005年9月25日（日）9：30

講師：和田秀次

今年の春に山焼きが再開された雲月山は、秋を迎えました。山焼き再開後、初めての秋を迎えた雲月山では、どのような動植物がみられるのでしょうか。期待に胸を膨らませ、36名の参加者が雲月山駐車場を意気揚々と出発しました。今回の観察会の講師である和田先生を中心に、山道から外れて自由に観察を行いながら、ゆっくりと山を登って行きました。オケラ、カワラナデシコ、ヤマハギ、カナビキソウ、ウメバチソウ、ムラサキセンブリ、マツムシソウなど、たくさんの草花を観察することができました。地面にしっかりと根をはり、風に揺れながら空を見つめるその姿からは、自然の生命力や再生力の強さを感じられました。車道に下りてからも観察は続き、参加者たちは熱心にメモを取ったり、写真を撮ったりしていました。新しい知識を得て、おいしい空気と美しい風景に触れて、とても充実した一日となりました。

[金高文香]



雲月山の山肌にはたたら製鉄の跡が見られる。西中国山地の製鉄の歴史についてのお話。



右手は島根県、左手は広島県。管理によって植生が全く異なるのが分かる。



登山を始める前に、パソコンを使って山焼きの説明をする和田先生。



高山の山頂でお昼ごはん。意外と風が無かった。



広島県側で中腹の色が違う所は、4月9日の山焼き時に、残雪があって燃え残った所。



帰りの車道でもしっかり観察。



草原に生えるモリアザミ。この花はこれから開いていくところ。付き出した雄しべから花粉がこぼれる。



最後に山焼きと草原生植物の話をもとめていただいた。



枯れたヨモギを使って艾（もぐさ）を作ってみた。



雲月山を背景に。

読者サロン

このコーナーではみなさんから頂いたお便りをご紹介します。

テーマトーク

今回のテーマは、『秋の夜長に読みたい本』です。それでは、コメントを紹介します。

あらーきーさん

秋の夜長に読む本は、西中国山地に広がる満天の星空の下でこんな本が お勧めです。

『惑星へ』 カール・セーガン、朝日文庫

自分がまだ小さい頃に、TV番組の『コスモス』を見て以来の氏のファンに成りました。カール・セーガンと「2001年宇宙の旅」の作者アーサー・C・クラークは対談の中で「宇宙というのは科学と哲学が 出会う場所・・・」と言っていました。自然の中で大きく豊かな物を実感するという事は、ある意味で「哲学を実感するのだ」と僕は思います。星空を見つめるという事は、人間自身の存在の小ささや宇宙という膨大な空間を実感出来るととても素晴らしい時間です。瞬く星の一つ一つを見つめながら、八幡の夜空で繰り広げられている壮大なスケールで宇宙の事を想いを馳せるのも時には良いのでは・・・?! 余談ながら、僕のカメラバッグにはたいてい一冊の文庫が中に入っています。本という「メディア」は、明るささえあればいつでも読める!!! 例えば森に入って撮影をしている時に、気分転換と休憩を兼ねて読書がすぐに出来る。これって当たり前のようですが、素晴らしい「メディア」だと実感します。

そして、高原の自然館三人娘のオススメは...

●柳崎からのオススメ

『誰でも落ち込む日がある。The Blue Day Book』Bradley trevor Greive

動物のブルーな? 表情とコメントが癒し系(英語と日本語併用も good). ちなみに2・3・4とシリーズがあります

『フクロウはだれの名を呼ぶ』ジーン・クレイグヘッド・ジョージ

アメリカ北西部の原生林を舞台に、ナチュラリスト作家が贈る、自然と人間の共生の物語。

●藤原からのオススメ

『オレンジページ』オレンジページ

見かけたら必ず買うようにしています。盛りつけ、食材など日頃のごはん作りに役立ちそうなアイデアのつまった本です。

『山と溪谷』山と溪谷社

いつも家にかけてあるので、いつかは行けるであろうその日のために準備するつもりで読んでいます。

●河野からのオススメ

『だれも知らない小さな国』佐藤暁／村上勉、講談社

『チョコレート工場の秘密』ロアルド・ダール／クエンティン・ブレーク、評論社

今、私の読みたい本。それは児童書です。子供の頃、図書室で借りてワクワクしながら読んだことを思い出してまた同じ本が読みたくなってきました。大人でも楽しめる本だと思います☆

そしてしらかわからも、今、枕元にあるのはこんな本です。

『アースワークス-大地のいとなみ』Lyall Watson (著), 内田美恵 (翻訳), ちくま文庫

目に見えている世界の中にある不確定さを感じ出させてくれるので、時々読み返したりします。生物とか意識とかについて考え直さきっかけになります。

『シークレット・ライフ-物たちの秘められた生活』Lyall Watson (著), 内

読 者 サ ロ ン

田 美恵（翻訳）、ちくま文庫

同じくライアル・ワトソンの著書です。以前、読むのを途中で止めたのですが、改めて読み直しています。内容を鵜呑みにするのはキケンですが、上と同じく秋には良いです。

『酒仙』南條竹則、新潮文庫

何度も読み返しては幸せな気分になっています。お酒の好きな人にオススメ。

『風の旅人 vol.13』ユーラシア旅行社

写真が良くて、文章も読み応えがあります。ゆっくりゆっくり全てのページに目を通していて、まだ13号です。でも、今日届いた16号を見ると、ちょっと路線が変わってきているようでカナシイです。

次号のテーマは『冬間近。これがあれば寒い日も楽しい！』です。ここ数日、夜空を見上げると銀河の向こうまで見えそうなほど空が澄んでいます。それと同時に冷え込みも厳しくなり、冬の気配がすぐそこまで近づいていることが分かります。今回のテーマは、寒い冬こそ外で楽しく過ごすための道具を募集します。

しらかわのオススメは・・・ミトンにもなる指だし手袋。うーん、説明しにくいですが、ユニクロにも売っていますよ。

このコーナーでは皆さまからのお便りをお待ちしております。西中国山地の自然賛やコラム、イベント情報をはじめ、苧尾電波塔の感想やご意見など何でも結構です。お葉書、fax、メールなどで気軽に御寄稿ください。

観 察 会 案 内

深入山の動植物

開催日時：2005年10月2日（日）9：30

集合場所：深入山山の家（かも八前駐車場）

講師：暮町昌保・斎藤隆登・和田秀次

準備：山を歩ける服装、弁当、雨具、双眼鏡、ルーペ、図鑑、メモ、おやつ等

定員数：30名

参加料：300円（ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円）

今年山焼きが再開した雲月山に対し、深入山では毎年山焼きが続けられてきました。当然、そこに成立植生は違ってきます。この観察会では山焼きを続けることによって維持されている草原の植生を観察します。前週に行われる雲月山の観察会と併せて参加するとより楽しいと思いますよ。

サツキマスの産卵観察会

開催日時：2005年10月8日（土）9：30

集合場所：八幡高原センター

講師：内藤順一

準備：山を歩ける服装、弁当、雨具、双眼鏡、図鑑、メモ、おやつ等

定員数：30名

参加料：300円（自然史研究会会員は100円）

聖湖を海にみたとて生長したアマゴは、大型化してサツキマスとなり、八幡の柴木川に遡上してきます。この観察会では遡上してきたサツキマスのほか、産卵のために作られた産卵床なども観察します。さらに今回は、昨年、町内で生息が再確認されたカワシンジュガイについてもお話していただきます。西中国山地の川のお話を総合的に聞く機会です。ぜひご参加ください。

※ 民宿について。

2つの観察会が連続で行われます。宿泊を希望される方はご連絡ください。

観 察 会 案 内

鳥の観察会（鳥類相調査）

開催日時：2005 年 10 月 9 日（日）8：00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：山を歩ける服装，弁当，雨具，双眼鏡，図鑑，メモ，おやつ等
定員数：30 名
参加料：300 円（自然史研究会会員は 100 円）

夏から冬へと変化するこの時期は，鳥の渡りの季節です．この観察会では環境省の許可を得て行っている調査の一環として，かすみ網を使って捕獲した野鳥を間近で観察します．換羽の様子など，双眼鏡や望遠鏡を使つての観察では絶対に見られない鳥の姿を見るチャンスです．間近で鳥を観察した後には，湿原の再生を行っている土嶽地区を歩きながら野鳥の観察を行います．ぜひご参加ください．

キノコの観察会

開催日時：2005 年 10 月 9 日（日）13:00
集合場所：高原の自然館
講師：山手万知子
準備：山を歩ける服装，雨具，ルーペ，キノコかご，図鑑，メモ，おやつ等
定員数：30 名
参加料：300 円（自然史研究会会員は 100 円）

お待たせしました！久しぶりのキノコ観察会です．山を歩いていて気になってはいるものの，ついつい手の出せないキノコ．今回はそんなもどかしいキノコについて解説していただきます．「食べられる・食べられない」というだけでなく，キノコのいろんな生態が分かってくると思いますよ．

採取したキノコを使って試食会を行います．参加料は 1,000 円です．

冬鳥の観察会

開催日時：2005 年 11 月 6 日（日）8：00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：山を歩ける服装，弁当，雨具，双眼鏡，図鑑，メモ，おやつ等
定員数：30 名
参加料：300 円（自然史研究会会員は 100 円）

木の実と冬芽の観察会

開催日時：2005 年 11 月 6 日（日）10:30
集合場所：高原の自然館
講師：斎藤隆登
準備：山を歩ける服装，雨具，ルーペ，図鑑，メモ，おやつ等
定員数：30 名
参加料：300 円（自然史研究会会員は 100 円）

花 だ よ り

ヤマラッキョウ

打ち上げ花火のようにまるく開きます．紫色の小さな花が集まった姿がきれいです．

ツルリンドウ

登山道を歩いていると見られます．地味な花ですが，色の変化が楽しめます．

ナギナタコウジュ

茎の片側だけに並んで花を付けます．ブナ林の他に道路沿いでも見られます．

ひと月前までは「秋といってもまだまだ」なんて思っていたのですが，千町原はススキに覆われ，ノイバラ・カンボク・アズキナシの実には真っ赤に色づきました．芸北のアイスクリーム屋さん，ドルチェのアイスクリームに「かぼちゃ」が登場しました．柴木川にはサツキマスの姿が見られます．紅葉はもう少し先ですが，季節は着実に冬に向かっていきます．八幡は昼も夜も宇宙まで見えるほど空気が澄んでいます．気持ちのいいこの時期を見逃さないでくださいね！

記事に関するお問い合わせ，観察会のお申し込み先（ご意見・ご感想もお待ちしております）

高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info